

常夜燈 (2)

西羽 晃

堤原（現在は参宮町と称しています）は桑名城下町から照源寺へ行く道（縄手道）と多度・美濃へ行く道（美濃街道）の分岐点で、ここに江戸時代に建てられた常夜燈と道標が建っていました（過去形です）。私が最も「お気に入り」の常夜燈と道標です。



年不詳（戦前）



1992年頃



2015年6月6日写す

常夜燈は安政3（1856）年の建立で、多度両宮のための常夜燈です。この常夜燈を寄進したと思われる人名が刻まれています。その総数は360人余になります。亀山・名古屋・信州の人も見られますが、殆んどは桑名の人です。川瀬覚左衛門、山口助左衛門、平野助右衛門、西邑甚兵衛、二井与吉、下里兵左衛門、味岡文次郎、佐藤孫右衛門、貝塚佐助、中嶋庄右衛門、橋爪宗左衛門、市岡与左衛門、大塚与兵衛、谷小兵衛、大黒屋茂兵衛など桑名を代表する町衆たちです。

山本源太夫や森本忠太夫など伊勢大神楽の人たちも見られます。もっとも多いのは屋号で呼ばれている商工業者で貝屋新左衛門、植木屋治兵衛、綿屋久兵衛など。他の屋号では米屋、魚屋、鍛冶屋、煙草屋、畳屋、鍵屋、塩屋、塗師屋、桶屋などがあり、それを見ますと、当時の桑名の豊富な業種が知られます。出身地を示すと思われる尾張屋、波切屋、美濃屋、大泉屋、山崎屋、日永屋などもあります。他にも町名や村名だけもありますが、武士の名は一つもありません。

かたわらの道標は「右 みのたどみち」「左 すてんしょみち」とあります。右はみの（美濃）たど（多度）へ行く道を示しています。左の「すてんしょ」とは鉄道の「駅」のことです。この道標の建立は弘化4年（1847）年即ち江戸時代の終わりころですから、鉄道はまだ通っていない時期です。「左」と「右」の字体が少し違ってきますから鉄道が通ってから「右 すてんしょみち」を彫り加えたのだらうと私は推測しています。

常夜灯と道標の背後にあった建物が平成 27（2015）年に撤去され、常夜燈と道標も解体されて桑名市郷土館（多度）の前庭に移されました。二つとも桑名の歴史を見せてくれる、最高の資料です。元の位置に戻すことが困難なら、元の場所近くにでも再築されることを私は願っています。



桑名市郷土館（多度）前庭

（この文は『くわなび MY みゅ』2015年7月31日号に書いた「堤原常夜灯と道標」を一部書き換えたものです）